

主 題：イエスはだれなのか

聖書箇所： マタイの福音書 16章 13－20節

今から、私たちの信仰において最も大切な質問、「イエスはいったいだれなのか？」についてごいっしょにみことばを見ていきます。「主イエスとはいったいだれなのか？彼の本当の姿とはどのようなものか？」、そのことについて、主ご自身が大切な教えを与えてくださっています。今日のテキストはマタイの福音書 16章の 13節からです。

☆主イエスとはだれなのか？

A. 主イエスの本当の姿 13－17、20節

この箇所は「主イエス・キリストはいったいだれなのか？」ということについて教えています。

1. 人々の告白 13－14、20節

ここには、人々がどのような告白をしたのか？つまり、人々はイエスをどのように見ていたのか？そのことについて記されているので、先ず、それを見ましょう。16：13－14「13 さて、ピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに尋ねて言われた。「人々は人の子をだれだと言っていますか。」14 彼らは言った。「バプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。」。主イエス・キリストが、人々と常に時間を取っていた弟子たちに「彼らはわたしのことをいったいだれだと言っているのか？」と、このような質問をされたのです。なぜ、こんな質問をなさったのでしょうか？イエスは人々の評判を気にしておられたのでしょうか？そんなことはありません。なぜなら、聞かなくとも、イエスは彼らの心の状態がどのようなか、どんな思いを抱いているか、すべてのことをご存じだからです。では、なぜこんな質問をされたのか？私たちは考える必要があります。イエスは弟子たちのために敢えてそのような質問をなさったのです。ある目的をもってされました。その説明は後で見ます。

弟子たちはその質問に対してこのように言いました。「実は、私たちはこのようなことを耳にしました。ある人たちは『あなたはバプテスマのヨハネではないか？』と言い、ある人たちは『エリヤではないか？』と言います。」と。実は、旧約聖書の最後のマラキ書の中に、世の終わりにはエリヤが来ると記されているので（マラキ 4：5）、人々は「この方はエリヤではないのか？」と考えてそのように言っていたと言うのです。また、ある人たちは「イエスは預言者ではないか？」と言っています。ここにエレミヤという名があります。もちろん、エレミヤも預言者のひとりですが、実は、このエレミヤはユダヤ人の伝統によると、バビロン捕囚のときに、契約の箱と祭壇を隠したと言われています。そこで、救世主による新しい時代が始まる前に、彼が再び現われて、それらを元に戻すと言われるのです。だから、人々はそのエレミヤではないのか？と言ったと言います。

悲しいことは、だれ一人として、イエスがいったいだれなのか？そのことを正しく告白した人はいませんでした。でも、イエスは人々の前でご自分がメシヤ、救世主であることを常に示して来られました。

◎イエスがメシヤである証拠

(1) 完全な人生 : 完全無欠で彼は罪を犯すことがありませんでした。常に、父なる神のみこころに従って来られた。そして、十字架にまで従っていかれた。その彼の人生が、このイエスこそが約束の救世主であることを明らかにしたのです。

(2) 完全な力 : 全能であることを奇蹟をもって明らかにされました。多くの病人を癒されたり、五つのパンと二匹の魚で男だけで5000人に食事を与えられた。ガリラヤ湖の上を歩かれたり、嵐を静められたりと、様々な奇蹟をもって主イエス・キリストご自身に力があることを明らかにされました。彼は自然界を支配することができたとし、いかなる病も彼にとって癒すことのできないものではありませんでした。ですから、このような奇蹟をもって、彼が全能の力を持っておられる神、キリストであることを明らかにされたのです。

(3) 完全な赦し : 罪を赦すことでご自分が救世主であることを明らかにされました。イエスは人々の罪を赦されました。それを聞いていたパリサイ人たちは「神を冒瀆している」と言いました。なぜなら、罪を赦すことができるのは神だけだからです。だから、イエス・キリストの主張を彼らはよく理解したのです。そして、彼らはイエスに逆らいました。

(4) 完全な証拠 : イエスはご自分の行ないに裏打ちされた証言をもって、ご自分がまさに救世主であることを明らかにされました。

それなのに、人々はイエスが救世主であることを信じようとはしなかった。主イエスの数々の奇蹟を

目撃し、そのメッセージに溢れる知恵を耳にしていながら、信じることはなかったのです。3年と少しの間、ともに過ごした人々、彼らはイエスの奇蹟を見、メッセージを聞いて来たのに信じようとはしなかったのです。なぜでしょう？

◎信じようとししないその理由

一番大きな問題は、この人々の中に自分たちが考える救世主像があったことです。救世主とはこういう人だという、それをもっていたのです。救世主は自分たちをローマから解放してくれる人である、そして、イスラエルの王国を築いてくれる人であると。ですから、人々はその期待を初めにイエスに対してもったのです。ところが、イエス・キリストはローマからの解放を目指したのではなかったのです。ローマに反抗してローマに勝利を得るために様々な作戦を練るなどということではなかったのです。なぜなら、イエス・キリストはローマからの救世主ではなく、罪からの救世主だからです。すると、自分たちがもっている救世主像と違うから、当然、イエスを廃絶しようとしします。イエスがどんな奇蹟をしてもどんなメッセージをしても、彼らは自分たちの考える、自分たちの思う理想の救世主と違ったゆえに、イエス・キリストを否定するのです。

20節には非常におもしろいことが記されています。「そのとき、イエスは、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と弟子たちを戒められた。」と。なぜ、ご自分はキリストなのに、そのことを人々に知らせることを拒まれたのでしょうか？人々は「救世主が来られた」というと、間違いなく、イエスを担ぎ上げてローマに反抗しようとするからです。そのような救世主を待望していた人たちにとって、「救世主が来られた」というメッセージは一番聞きたいメッセージです。そして、その救世主とともに何とかローマに反旗を翻してローマから解放されるようにと、それは争いを引き起こすことになったでしょう。イエスは「わたしはそのようなことのために来たのではない」と言われます。だから、人々はそのように待望しているから、彼らにこのことを伝えるなど言われたのです。

悲しいことに、人々はイエスのメッセージに耳を傾けることをしませんでした。見ても、聞いても、彼らは心を開こうとしなかった。それは今も変わっていません。せっかく、救い主が来てくださったのに、すべての罪人の罪が赦されて生まれ変わることができると言っているのに、その救い主を信じようとはしないのです。その方について考えようとししないのです。2000年前と何も変わっていません。

2. ペテロたちの告白 15-16節

今度は、イエスはペテロたちに対して同じ質問をされます。15-16節「15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」16 シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」。注意していただきたいことは、主イエスはここで「あなたたちはわたしをどう思うか？」とか「わたしのことをどう考えるか？」という質問をされたのではなかったということです。「…だれだと言いますか。」とあります。「言いますか？」、つまり、イエスがここで聞こうとされたことは「あなたがたはわたしをだれだと信じているのか？」です。なぜなら、「言うこと」、ことばは心から出て来るものだからです。ですから、「あなたがたはどう言うのか？」とは「あなたがたの心はどうなのか？どういう思いを抱いているのか？」なのです。ローマ10:10に「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」と教えている通りです。つまり、口で告白するということは、心にあることが出て来るのです。あなたの心が主イエスを信じているなら、それが口から出て来るのです。

ですから、イエスがここで問われていることは「あなたがたはわたしをどう思うのか？」ではなく「あなたがたはわたしを見て来た。わたしの奇蹟を来て来たし、メッセージを聞いて来た。では、わたしをだれだと信じているのか？」です。彼らの信仰を問われているのです。

そして、16節にペテロの告白が記されています。これはまさに「福音、救いのメッセージの根幹を要約したもの」です。非常に大切なものです。今日はほかのことを忘れてもこれだけはしっかり覚えておいてください。最も大切なメッセージであり、私たちが覚えなければならないメッセージ、考えなければならないメッセージです。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」。

実は、ペテロがこのように告白するのですが、ギリシャ語では「あなたは、THE生ける、THE神、THE御子、THEキリスト」と定冠詞が四つも付いているのです。意図的にそのようにしています。なぜそのように発言したのか？ペテロはイエスがだれであるのかということを明確に知っており、それを信じていたから、そのことの告白なのです。では、ペテロは何を告白したのでしょうか？

◎ペテロの証言

(1) イエス・キリストは真の救い主、キリストである

唯一のキリスト、唯一の救い主だと言っています。創造主なる神によって約束されていた「救世主、キリスト」であると。そのことはイエスご自身も言っておられます。先ほど見たマタイ16:20「そのとき、イエスは、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と弟子たちを戒められた。」。ご自分がキリストだということを明確に告白しておられます。マタイ1:16には「ヤコブにマリヤの夫ヨセ

フが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。」、ヨハネ 11：27 ではマルタが「彼女はイエスに言った。「はい。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストである、と信じております。」と告白しています。

(2) 真の神である

ペテロは「生ける神の御子」と言いました。この「神」も「御子」も「キリスト」もすべて名詞で、前に定冠詞が付いているのですが、「生ける」だけは動詞です。現在形を使っています。なぜなら、イエスはずっと生きておられるお方だからです。あるときにだれかによって造られたとか、あるときに生まれたというわけではありません。私たちと同じではないのです。確かに、イエス・キリストは人として来られました。しかし、イエス・キリストは永遠から永遠に存在しておられる神です。ですから、このペテロの告白を見るときに、「イエスさま、あなたは永遠から永遠に存在しておられる方、ずっと生きておられるお方、すなわち、神である。」ということを明らかにするのです。敢えて、このことを強調するのは、私たちの周りに存在する神と名のつくものとの決定的な違いを明らかにするからです。いのちのない偶像との違いを明確にします。それらは人間が造ったものであったり、また、人間であったりします。みな死んでしまいました。

しかし、このイエスは永遠から永遠に生きておられるから神なのです。私たちと同じように生まれて死んでしまったとするなら、創造主ではありません。いのちを司っておられる神ではありません。しかし、ペテロはここで「あなたは唯一の神です。なぜなら、あなたは永遠に存在しておられるから。」と告白しました。皆さんもよく覚えておられますが、ヨハネ 11：25 「イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」、わたしがよみがえりであり、わたしが唯一のいのちだと言います。この「いのち」の前にも定冠詞が付いています。たくさんのいのちがある中のひとつの「いのち」と言うものではありません。永遠のいのちを得るためのたくさんの道のひとつだと言っているわけではありません。わたしだけが永遠のいのちをもっており、わたしだけが永遠のいのちを与えることができると明確に言われたのです。だから、「わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」と言われました。永遠のいのちを持っている神が永遠のいのちを与えてくださるからです。そして、その永遠のいのちをいただいた人は、神と同じように死ぬことなく、それで終わることなく、永遠に生き続けることができます。ヨハネ 10：28 に「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」とある通りです。

さて、この2. 15－16節を「ペテロの告白」としないで「ペテロたちの告白」としました。なぜなら、これはペテロだけの告白ではないからです。間違いなく、ペテロとともにいた弟子たちも同じ告白をしているのです。なぜなら、「使徒の働き」を見ると、もちろん、福音書もそうですが、ペテロは使徒たちの中の代表だったからです。彼はいつも代表として他の弟子たちに代わって発言していました。ペテロはそのような責任をもっていたのです。そして、この告白が彼だけのものでなかった証拠は20節に書かれています。「そのとき、イエスは、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と弟子たちを戒められた。」と書かれています。ということは、そこにいた弟子たちの中にペテロと同じように告白した者たちがいたのです。ペテロが「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と言ったときに「そうです！」と言った者たちがいたのです。ペテロだけの告白ではなかったのです。

そのことを頭に入れて17節を見てください。

3. ペテロたちへの祝福 17節

17節「するとイエスは、彼に答えて言われた。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」、あなたは祝されていますと言います。どのような祝福を神はペテロを初め、この告白をした者たちに約束されたのでしょうか？

1) 永遠の祝福

このように告白をする者に神は完全な罪の赦しと永遠のいのちを与えてくださいます。なぜなら、それがイエス・キリストがこの地上に来られた目的だったからです。彼は救い主なのです。救い主である以上、彼はあなたの罪を赦し、あなたに永遠のいのちを与えてくれるのです。それが神が約束された祝福です。そのことを言っているのです。ヨハネ 10：28 に「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。」とありますが、このような約束ができたのは主イエス・キリストに永遠のいのちがあるからです。そして、その永遠のいのちを彼は人々に与える権威を持っています。使徒 10：43 に「イエスについては、預言者たちもみな、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しを受けられる、とあかししています。」とあります。神が約束してくださった祝福の一つは、そして、一番大切な祝福は、私たちの罪が赦されてこの救いに与るということです。だれがこの祝福に与るのか？イエス・キリストをこのペテロが告白したように正しく信じ受け入れる人です。「イエスさま、あなたはキリストです。あなたはわたしを救

うために来てくださった救世主です。私はあなたの救いが必要です。私はあなたを信じます。そして、あなたは私の神です。」と、イエス・キリストを信じ受け入れた者たちを神はこの祝福に与らせてくださるのです。

使徒26：18でも大切なことを教えています。「それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中にあって御国を受け継がせるためである。」、人々の目を開いて、主イエス・キリストを心から信じ受け入れる人々、救世主であり真の神であるイエス・キリストを自分の救世主として自分の神として心から信じ受け入れる人々、そのような人たちに対して神は、彼らの目を開いて、彼らを暗やみの中から光の中に、サタンの支配下から神の支配下に置いてくださるのです。わたしを信じる信仰によって彼らに罪の赦しを与えてくださる。そして、聖なる者としてくださって、その人たちに御国を受け継がせてくださる、永遠の天国を約束してくださると言うのです。今見て来たことがここにもこのように記されています。

クリスチャンの皆さん、あなたはイエス・キリストを信じる信仰によってこのすばらしい祝福に与ったのです。罪が赦されて永遠のいのちが与えられました。このペテロと同じ告白をするあなたにこの約束が与えられたのです。

2) 「神の恵み」

その上で、17節に「…このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」とあります。このすばらしい神の祝福は実は神の恵みだと言うのです。

(1) 人の努力ではない

17節に「…明らかに示した」とあります。つまり、あなたがどんなに努力しても、あなたの努力でこの救いを得ることは無理だということです。17節には新改訳聖書では「人間ではなく」と、「人間」ということばを使っています。ここにマークが付けられていて、欄外を見るとギリシャ語の直訳では「肉と血」とあります。どちらかと言うと、これは人間の能力、人間の力のことです。私たちがどんなに努力をしようと、どんなに頑張ってみても、私たちのその力ではこの罪の赦しを得ることは有り得ないのです。パウロはIコリント2：14で「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。」と言っています。つまり、福音を聞いても、罪の赦しのことを聞いても、人々にはそのすばらしさが全く分からないと言うのです。だから、皆さんが一生懸命に語っても人々は福音に心を開いて福音を受け入れようとしません。

(2) 神の恵みのみわざである

でも、神が働くと別です。17節にはこのすばらしい真理を明らかにしたのは、人間ではなく、肉や血ではなくて、天にいますわたしの父だとあります。神があなたにこの真理を悟らしてくださったというのです。ですから、「あなたは生ける神の御子キリストです」と告白したペテロ、このような告白ができたのは、神がペテロの心に中に、また、周りの人々の心に働いているからです。まさに、これは神の恵みのみわざだと言うのです。神がこのような働きを為してくださると言います。あなたがこの神の真理を悟ることも、そして、自分が本当に心汚れた罪人だと気付いて、本当にその罪を悔い改めるのも、そして、神が備えてくださったこの完全な救いを信じるという選択に至るのも、すべて神のみわざであると言うのです。

パウロはエペソ1：7でこのように言っています。「この方において私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。」と。神があなたの心に働いたから、あなたはこのすばらしいイエス・キリストの十字架に対して、「私はこのイエスの救いを必要としている。私は是非イエスさまによって罪の赦しを頂いて、新しく生まれ変わりたい。神の前に逆らい続けるのを止めて、神を信じて従って行きたい。」と、そのような決心にあなた自身が至ったのは、神があなたの内に働いてくださり、その選択へと導いてくださったからです。だから、救いは神の恵みなのです。同じエペソ2：8に「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」とある通りです。救いは神がくださったギフトです。すばらしいギフトです。でも、そのギフトを頂くためには私たちには責任があります。

(3) 人の責任

私たちの責任は神を「求めること」です。使徒17：27に「これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。」とあり、神がすべてのものを造り出されたから、私たちは神を求めるべきだと言います。でも、悲しいことに、だれ一人、救いが必要だと告白しません。神を探り求めないのです。ヨハネ5：40に「それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。」とあります。「私は罪を赦していただきたい。主によって私の罪をきれいに洗って頂きたい」と、主の前に

救いを求めて出て来ないのです。イエスの時代もそうだったようにそのことは今も変わっていません。「自分はもう十分だ。良い行ないをしている。私に救いは必要ではない。私よりも隣のあの人に必要だ。」と言います。

さて、イエスが最初に質問したことを覚えていますか？なぜ、イエスは弟子たちに「人々は人の子をだれだと言っていますか。」（１６：１３）と、分かり切っているのにこんな質問をなさったのでしょうか？ここまで見て来て思いませんか？確かに、イエス・キリストは人々の心をご覧になっています。でも、人々の心が分からなかったのは弟子たちなのです。この後、イエス・キリストは教会を建てていくということを話されます。その中で彼らは大切な役割を担っています。教会を建て上げて行くために、彼らはこのすばらしい救いのメッセージを人々に伝えて行く必要があります。でも、そのメッセージを語っても語っても人々は心を開かないのです。だから、イエスは教えなければいけなかったのです。神が心を開かなければ彼らは救いへと来ないということを…。だから、あなたが一生懸命福音宣教をしても結果が伴わないかもしれない。でも、失望してはいけません。人を救いへと導くのは神のわざだけれど、私たちクリスチャンに与えられている責任は、「こんなすばらしい救いが備えられている。このような救いに与ることができるのだ。」というメッセージを伝えることです。失望せずにそれをしなさいと言うのです。なぜなら、イエスが地上におられた時に、イエスのそのみわざを見ても、メッセージを聞いても人々は「この方こそが待望の救世主だ」と言わなかったのです。イエスの御顔を拝していても、人々は「この方は真の神だ」と言って、跪いて彼を信じようとしなかったのです。それ程、人間の心というのは陰陰で治らないのです。

でも、感謝なことに、ここにおられる多くのクリスチャンの皆さん、神があなたの内に働いてくださったから、この救いを今あなたは喜んでいるのです。あなたに与えられたメッセージは「あなたの責任はこのすばらしい主を宣べ伝えて行くこと」です。どんなに失望を覚えるときであっても…と、恐らく、そのことを教えるために弟子たちにその質問をなさったのでしょうか。「みんなはわたしのことをどのように信じているのか…？だれも信じていない。」と。

B. 主イエスの約束 18-19節

さて、救いに与った人たちに対する主イエス・キリストの約束が18, 19節に書かれています。「ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。：19 わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつながなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」

1. 教会を建てる 18節

一つ目の約束は「教会を建てる」という約束です。18節に「あなたはペテロです。わたしはこの岩の上に…」と記されています。実は、ここに「ことばのあや」があります。欄外に、「ペテロ」はギリシャ語では「ペトロス」、「岩」は「ペトラ」とであると記されています。イエスは「あなたはペトロスです。わたしはこのペトラの上にわたしの教会を建てます。」と、このように言われたのです。

1) 何を建てるのか？ = 「わたしの教会」を

イエスは「わたしの教会を建てる」と言われました。この「教会」とは、建物を指しているのではありません。地域に存在する教会を指しているのではありません。ここで使われている「エクレシア」というギリシャ語は「神が暗やみの中からご自分の目的のために人々を召してくださった」という意味を持ったことばです。ですから、今見て来たように、神ご自身が働いてあなたを罪の暗やみの中から呼び出してくださった。神ご自身の目的のために、あなたを呼び出してくださった。それが「エクレシア」、「教会」です。ですから、その教会に属する人々は、このような地域や場所に限定されません。世界に一つしかない教会に属しているのです。国籍も人種も関係ない、イエス・キリストの恵みによって救われたひとり一人が属する教会のことを言っているのです。まず、そのことをしっかり頭に入れておいてください。その「教会を建てる」とイエスが言われたのです。

しかも、ここでは「わたしの教会を」と言われました。この教会の存在目的を明らかにしているのです。教会は主に属するものです。つまり、教会は主イエスのためにすべてのことをする集まりなのです。主イエスの栄光を現わすことだけを願いながら歩む教会なのです。この教会が望んでいることは、この救いを与えてくださったこの神のすばらしさを世に証することです。そのために存在しているのです。そのように考えると、私たち救われたクリスチャンが何のために生きているのですかと問われたら、同じことを言うでしょう。「私たちは神の栄光のために生きる」と。その目的のために救われ、その目的をもって集まっている人たちの集まり、それが今イエスが言われている教会のことです。イエス・キリストを信じる者たちだけによって構成されている教会です。

2) どこに建てるのか？ = 「この岩の上に」→ 建物の土台、礎石のこと

では、その教会をどこに建てるかイエスは言われましたか？ここには「この岩の上に」と書かれていま

す。私たちが理解するためには建物を頭に描くことで、建物を建てるためにそこには絶対に礎石、土台が必要です。その上に家を建てるのです。そのことを用いてイエスは何を教えようとされたのでしょうか？

(1) ペテロ個人

18節に「あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。」とあって、この「岩」はペテロ自身のことを指していると信じる人たちがいます。ですから、その人たちは「これはペテロに与えられた約束であって、ペテロという人物の上に教会を建てるとイエスが言われた。」と言うのです。だから、彼らは「ペテロは最初の法皇だ」と言うのです。「キリストから特別な権威を受け、この地上でキリストを代表する人物だ。それがペテロだ。」と。だから、彼の語ることは聖書と同じほどの権威を持つと考えるのです。今まさに、その延長がカトリック教会でしょう。法皇が存在するのです。

しかし、この解釈が間違っているというのは、実は、18節の「ペテロ」、「ペトロス」という最初のギリシャ語は男性名詞が使われています。そして、次の「岩」、「ペトラ」は女性名詞です。もし、これがペテロという一人の人物を指しているとすれば、「ペトラ」も男性名詞を使うはずで、性の不一致がここに見られます。確かに、「ペテロ」が使われていますが、この「岩」はペテロではない、ペテロ以外の何かを指していると、そのように結論づけることが正しい選択だと思います。

もう一つ言えることは、聖書がこの「岩の上、土台」について何と教えているかです。パウロはこう言います。Iコリント3:11「というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。」と。「もう土台ははっきりしている。イエス・キリストだ。」と言っています。そして、ペテロ自身もこのことについてIペテロ2:5-6でこのように言っています。「あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」」と。だれのことですか？主イエス・キリストです。ですから、パウロも教会というその組織、集まりの土台はイエスだと言い、ペテロ自身もそれはイエスだと言っているのです。

ですから、「この岩の上に」をペテロと取ることはペテロ自身の証言にも反することになります。

(2) ペテロの告白

多くの人たちは「あなたは生ける神の御子イエス・キリストです。」というペテロの告白の上に教会を建てると、そういうメッセージではないかと考えます。実は、私もそうかなと思っていました。でも、みことばを見ると、次に紹介する説が一番それにふさしいのではないかと思います。

(3) ペテロたち

「岩の上に」という「岩」は「ペテロたち」です。ペテロというギリシャ語の「ペトロス」は「小さな石ころ」です。そして、この「ペトラ」は「大きな岩」です。岩盤のようなものです。イエスはここで「ペテロ、あなたは小さな石です。でも、この大きな岩の上にわたしは教会を建てます。」と言われたのです。先程も説明したように、16節の告白はペテロだけのものではなかったと言いました。ペテロと同じように「あなたは生ける神の御子キリストです。」と告白した人たちがいたのです。ペテロは彼らの代表でした。ということは、「ペテロ、小さな石、あなたは小さな石だけれど、あなたと同じように、正しい告白をした多くの人たち、つまり、その岩の上にわたしは自分の教会を建てます。」となります。

ですから、イエス・キリストという礎石、土台の上に、ペテロたちがまた土台を築き上げて、そして、教会を建て上げていくのです。ですから、18節で「この岩の上に」と言ったのは、ペテロたち、主イエス・キリストを正しく告白した人たち、彼らがイエス・キリストという土台石の上にまた土台を築き上げていく、そのような働きをする人たちだということです。

そのことをパウロが説明してくれています。エペソ2:19-20「:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。:20 あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。」。今見て来たことです。教会の礎石はイエス・キリストです。しかし、その上に教会が建て上げられていくのですが、そのプロセスにおいて、使徒や預言者たちが大切な基礎を築いたのです。彼らが「このイエス・キリストこそが真の救世主であり、真の神であり、人となって来られた神なのだ。」と、その告白をし、それを信じたのです。そして、信じた彼らはそのメッセージを語り続けていったのです。そうして彼らはこの教会の土台を確立して行ったのです。まさに、それは教会史を見る時にそのように行なわれていったことが分かります。

ですから、これらのことを見る時に、イエスがこのマタイの福音書の中で話された内容はそのことだったと分かります。礎石はイエス・キリストです。その上にしっかりと使徒たちが、告白をした彼らが、イエスを信じた者たちがその基礎を築き、そして、そのメッセージによって教会がどんどんと建て上げられていったのです。それがここでイエス・キリストが約束されたことでした。

2. 教会への祝福

神が建てると言われた教会、その教会に対してある祝福が約束されています。18節の後半に「…ハデスの門もそれには打ち勝てません。」と記されています。これは「復活」の約束です。この「ハデス」ということばはギリシャ語ですが、ヘブル語の「シェオル」と同じ意味を持っています。ヘブル語の「シェオル」は地獄ではありません。これは「墓」です。死を意味するのです。もっと言えば、死んだ人たちが行くところです。「門」と言うと、町があって城壁があってそこに門があってその中にいる人たちを守ります。ここでイエスは「ハデスの門も打ち勝てません」と言います。何に打ち勝てないのか？「教会に打ち勝てない」と、つまり、神を信じた者たちに打ち勝てないと言うのです。なぜなら、神を信じた者たちは死んでも生き返るからです。ハデスは一生懸命すべての人たちを死に留めておこうとします。門はその中にいる人たちを守ろうとします。しかし、「わたしの教会は、イエス・キリストを真の救い主、人となった真の神と信じて、この救いに与った者たちが、そのハデスの門の内側から復活をもって出て来るから、ハデスの門に打ち勝つのだ。」と、そのことがここで主によって約束されたのです。

先程も私たちはイエスのことばを見ました。ヨハネ11:25「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」、私たちは死に留まり続けるものではありません。私たちはその死から敢然とよみがえって来るのです。イエス・キリストが死からよみがえられたように、私たちも同じようにしてこの死に対して勝利を頂いたのです。私たちに對するすばらしい約束です。だから、私たちクリスチャンはこの地上での別れをある面では待望しています。なぜなら、これは終わりではないからです。よりすばらしいところ、私たちの神のところに引き上げられるのです。もちろん、「よみがえり」というのはクリスチャンだけのことではありません。イエスを知らない人たちもよみがえります。しかし、その後、永遠のさばきである地獄に至ります。

みなよみがえるのです。しかし、イエスが敢えて言われたことは、この神の教会に対するすばらしい祝福のことです。「あなたがたは死からよみがえって来る。そして、天の御国にあって永遠を神とともに過ごす。」と言うのです。

3. 教会の権威 19節

19節「わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」、これは教会に与えられている権威のことです。

1) 天の御国のかぎ

(1) 間違った解釈

多くの人たちは「わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。」を見て、ペテロが「あなたを救ってあげよう」というそのような力を持つかのように思うのですが、そのようなことを言っているのではありません。

(2) 正しい解釈

なぜなら、この御国のかぎを持っているのは神だけです。黙示録1:17c—18「…「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。」、だから、かぎを持っているのはイエスなのです。

2) 「つなぐ、解く」とは？

19節でイエスが言われたことは「何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」と、つまり、「地上と天が一致する」ということです。かぎを持っておられるイエス、それと私たちが一致するなら、そこに神の祝福があるということです。もっと言えば、教会という組織を考えたときに、これはどの組織でもそうですが、そこに存在している権威はだれのものかを考えてみることです。教会における権威はどこにあるのか？ある一部のリーダーたちにあるのか？牧師にあるのか？そんな権威はありません。権威があるのはこの神のことばである聖書です。ここに権威があるのです。ですから、神がこの聖書に明確に記されていることは、私たちもそのように権威をもって語ることができるということです。

例を言います。今日学んで来た通り、聖書は「イエス・キリストは私たちの救い主であり、真の神であり、人となられた神である。そのことをあなたが心から信じ受け入れるならば、あなたに救いが与えられる。」と言います。聖書がそのように教えています。すると、「私はそれを信じた」という人に対して私たちはこのように言えるのです。「あなたの告白していることが真実なら、あなたの言っていることが本当なら、この聖書の約束によって、あなたの罪が赦されて救われていると私は権威をもって言うことができます。なぜなら、それは聖書が言っていること、神の権威と一致するからです。」と。

もし、だれかが「主イエス・キリストのさばきを喜んで受けましょう。」と言うとか、救いのメッセージを聞いてもそれを信じようとしない、そのように自分の意志をもって神に逆らい続けている人に対

して、私たちはこのように言えるのです。「あなたがそうして神に逆らい続けて、神の備えてくださった救いを拒み続けているゆえに、あなたはこのままでいれば、あなたの罪は神の前にさばかれ、そして、あなたには永遠の地獄が待っています。私がそう信じているのではありません。神がそのように言われているからです。」と。ですから、そのことを私たちは権威をもって言うことができるということです。

実は、マタイの福音書16章、18章にも出て来るのですが、「教会戒規」のことが記されています。聖書が教えることに関して私たちは権威をもってそれを教え、それを実行することができます。聖書が「こうしなさい」と言われたことに関して、私たちは権威をもってそれを為すのです。なぜなら、聖書に従うことが私たち信仰者だからです。この聖書に権威があるのです。これが神のことばだからです。だから、私たちは私たちの思いを人々に伝えようとするのではありません。私たちは神が言われることを権威をもって伝えるのです。神が「NO」と言われたら私たちも「NO」と言います。神が「YES」と言われたら私たちも「YES」と言うのです。そして、それを為すときに、私たちは権威ある神が言っておられることだから権威をもって語ることができるのです。その権威が教会に与えられています。あなたや私に与えられているのです。だから、皆さん、周りにいる方々に対して、もし、明らかに聖書に反することをしているなら、あなたは権威をもってその人に「あなたの罪はさばかれます。もし、あなたが心から救い主を信じるなら救われる」と、権威をもって語ることができるのです。

イエスは最後にそのことを教会に関してお話になったのです。

結論 今日私たちが学んで来たこと、それは「主イエスとはいったいだれなのか？」です。ペテロは言いました。「あなたは生ける神の御子キリストです」と。問題はあなたは何とお答えになるかです。あなたが信じようと信じまいと、イエス・キリストはご自分が唯一の救い主であることを明らかにしてくださいました。私たち罪人にとって待望の救い主です。唯一の救い主です。この方は人となって来てくださった神であり、その完全な罪のない生活が、ご自分こそが私たちを罪から贖い出してくださる唯一の贖い主であることを明らかにされたのです。

あなたはこのイエス・キリストをあなたの生ける神の御子キリストと信じてこの救いに与っておられますか？それとも多くの人々と同じように、「預言者の一人です。聖人の一人です。キリスト教の教祖です。」と言って、この大切な真理を認めない、そのような歩みをされているのかもしれませんが。それなら、その罪を悔い改めて、今、救い主の前に救いを求めて来ることです。救い主はその救いを喜んで与えてくださる。イエスはあなたを救うために来てくださった救い主なのですから。

どうぞ、今日がその救いの日となることを心から願います。

《考えましょう》

1. 「生ける神の御子キリスト」の意味をあなたのことばで説明してください。
2. 「ハデスの門もそれには打ち勝てません」の意味を説明してください。
3. 教会の権威はどこにあると、主は教えられましたか？
4. あなたは、主イエスをだれだと言いますか？